

The Journal of Japanese Association of Occupational Therapists (JJAOT)
日本作業療法士協会誌



トピックス

「多様な文化的背景をもつ外国人に対する作業療法
ガイドライン」が完成
多様な文化背景に応え、すべての人に届く作業療法へ

会員情報 登録内容の確認・更新のお願い

作業で 暮らしに 彩りさ

作業(Occupation)はすべての人にとって大切な生活行為や心身の活動であり、作業療法は作業を通して健康と幸福に寄与できるという確信が、私たちにはあります。

私たちは作業療法士の職能団体として、常に質の高い知識と技術を保ち続けます。常に最善の作業療法を探求し創造し続けます。常に一人ひとりに寄り添い、必要な人に、必要な時と場で作業療法を提供し続けます。

そのさきに私たちは、小さな喜びも幸せを感じられる色とりどりな暮らしと、さまざまな人が自分らしく生きられる社会の実現に貢献できると考えます。

この基本理念は、 協会組織のあり方や、 組織の方向性を示す 価値観として 策定されました。	作業療法の 対象者だけではなく、 私たち会員や職員、 みんなが自分らしく 豊かな人生を 送れるように。 示しています。	そんな協会を 目指していることを
---	---	---------------------



一般社団法人 日本作業療法士協会
Japanese Association of Occupational Therapists

目次 ● 2026年2月15日発行 第167号

トピックス

- [2 「多様な文化的背景をもつ外国人に対する作業療法ガイドライン」が完成
多様な文化背景に応え、すべての人に届く作業療法へ](#)
- [6 会員情報 登録内容の確認・更新のお願い](#)
- [7 2026年3月より会費納入のクレジットカード決済が始まります！](#)
- [8 事務局からのお知らせ](#)
- [9 2025年度 災害対応力向上を目指したシミュレーション訓練のご報告](#)
- [12 2025年度第5回定例理事会 理事会レポート](#)
- [19 事務局だより～高校生のお客様をお迎えして](#)
- [22 第60回日本作業療法学会（新潟）のご案内](#)

連載

- [13 ICFに基づく疾患別作業療法アセスメントセットの開発②
▶精神科作業療法領域](#)
- [16 生涯学修制度（新制度）がスタート！
～選ばれる作業療法士になるために～⑨
▶受講していますか？ 活用していますか？ 前期研修eラーニング講座のすすめ](#)

- [23 各部・室の動き](#)
- [24 2025年度第5回定例理事会 抄録](#)

26 協会研修会のご案内／第9回日本リソバ浮腫学会総会のご案内	28	協会刊行物・配布資料一覧
27 第31回3学会合同呼吸療法認定士認定講習会および認定試験のお知らせ	30	求人広告／作業療法マニュアルシリーズ お詫びと訂正
	31	日本作業療法士連盟だより
	32	編集後記



「多様な文化的背景をもつ外国人に対する作業療法ガイドライン」が完成 多様な文化背景に応え、すべての人に届く作業療法へ

国際部

遡ること5年前の2021年、第四次作業療法5ヵ年戦略（地域共生社会5ヵ年戦略）を検討する段階で、国際部では地域共生社会5ヵ年戦略のスローガン「人々の活動・参加を支援し、地域共生社会の構築に寄与する作業療法」に応える事業として「外国人対象者に対する作業療法サービスに関するガイドラインを作成」を提案しました。

◆地域共生社会5ヵ年戦略での該当項目

【上位目的1】それぞれの地域ですべての人の活動・参加を支援する作業療法

1. むらしに困難を抱える人々の活動・参加を支援
 - 1) 疾病・障害にかかわらず「暮らしに困難を抱える人々」への作業療法支援の実践を拡大
5. 変化・進展する社会に対応し、LGBTQ+、外国人住民、子育て支援をはじめとした暮らしに困難を抱える住民支援を作業療法の観点で検討

提案の背景には、日本で在留外国人や外国にルーツをもつ人の数が増加し、地域の暮らしや医療・福祉の現場において、さまざまな文化的背景をもつ人々とかかわる機会が急速に広がっていることがありました。作業療法の臨床場面においても、言語や文化、生活習慣、価値観の違いが、評価や支援のプロセスに影響を及ぼす場面が増えてきているのではないでしょうか。そのような現場では、「どのように文化的配慮を行えばよいのか」「本人の価値観を尊重しながら効果的な作業療法を行うにはどうしたらよいか」といった課題が多く、作業療法士が



「多様な文化的背景をもつ外国人に対する作業療法ガイドライン」表紙

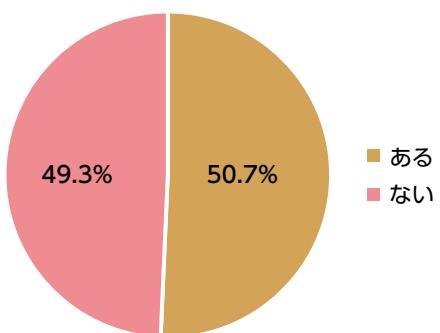
※ご注意：イラストの著作権は栄福会に帰属するため、会員によるイラストの無断使用・転載・複写（コピー）は禁止いたします。

判断に迷うことも少なくありません。また、文化的背景によって支援の受け止め方や家族とのかかわり方も異なってきます。

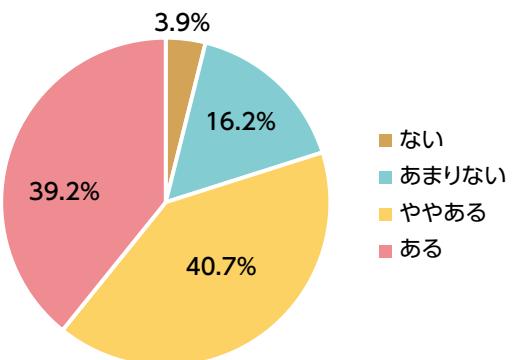
会員に実施したアンケート結果

ガイドラインをより実態に即した内容とするため、2024年5月に会員・施設向けのアンケート調査を実施しました。アンケート結果の一部を抜粋してご紹介いたします（図1・図2）。

◆現在の所属先で外国人患者の対応をした経験がありますか？



◆臨床作業療法場面で外国人患者を対応することに戸惑いがありますか？



約8割が、「戸惑いがある・ややある」と回答。
理由として多かったのは、以下3つにかかわる内容
でした。

1. 言語・コミュニケーションへの不安
2. 文化背景・制度等の違い
3. 自身の語学力への不安

◆実際に困ったこと・困るであろうこと（上位6つ）

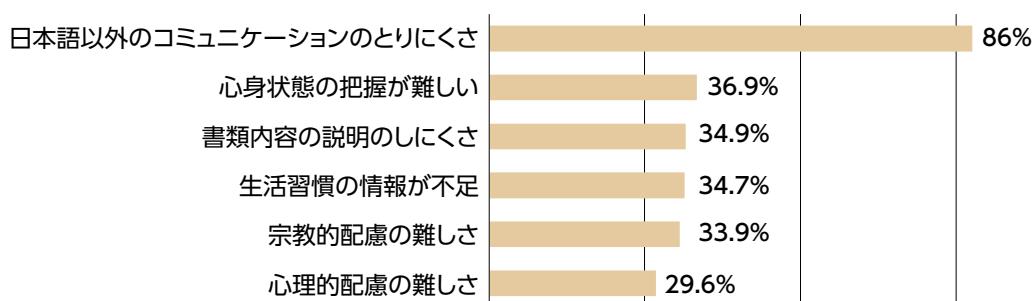
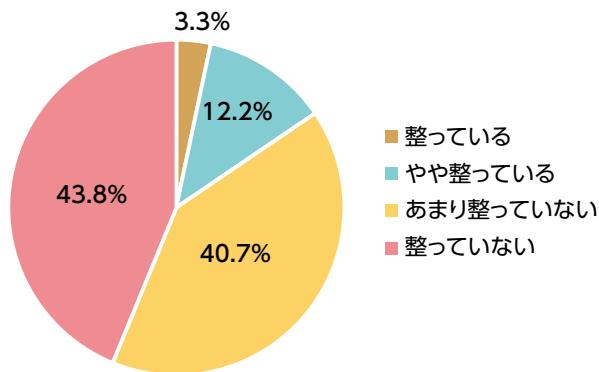


図1 会員向けアンケート結果（1,805件の回答）の抜粋

◆貴施設では、外国人患者を受け入れる体制はありますか？



◆外国人患者を受け入れるための体制を整える場合に、今後必要と思われること（上位6つ）

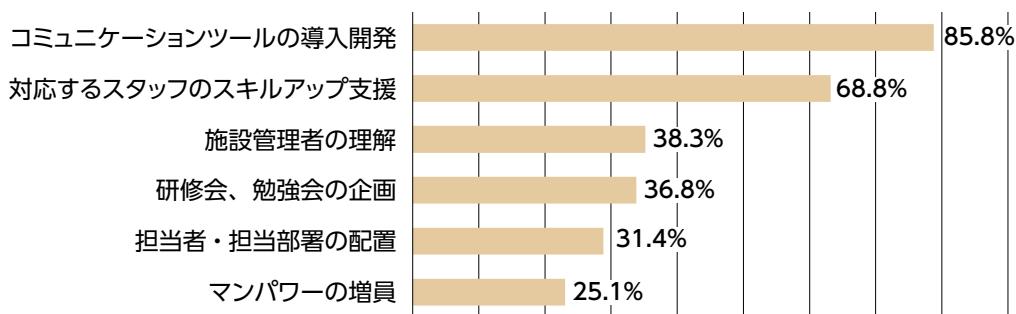


図2 施設担当者向けアンケート結果（459件の回答）の抜粋

「その他」の自由記述では、「時間感覚の違い」等の文化や価値観の違いにかかる内容が特に多く、次いで「細かいニュアンスが伝わりにくい」等のコミュニケーションにかかる内容が挙げられました。また、相手の国と日本の医療事情の違いにかかる内容として、「日本の制度を理解してもらうことが困難」等の声も聞かれました。

困った時の糸口として

こうした状況を受け、作業療法士が安心して、かつ質の高い支援を提供できるようにするために、多様な文化的背景をもつ外国人に対する作業療法の視点や配慮事項のポイントをまとめたガイドラインを作成する運びとなりま

した。このガイドラインは、文化の違いを障壁とするのではなく、個人の背景として尊重し、WFOT のビジョン「すべての人に届く作業療法」を実現するための大切な一歩となります。

本ガイドラインは作業療法の専門的な知識や技術に関する医療ガイドラインとは異なり、多様な文化的背景をもつ外国人対象者に接するにあたって作業療法士が配慮すべき文化的・言語的・社会的な背景についてのポイントを紹介するものであり、異文化への理解と対応に重点を置いた内容としています。参考となる Web サイト情報も掲載しておりますので、必要となる対応について準備検討する際や困った時の糸口としてご活用いただき、会員の皆様が戸惑いや不安を抱くことなく多様性に配慮し

た作業療法を提供する一助となれば幸いです。

ガイドラインは本会会員限定で公開しており、会員ポータルサイトの「ライブラリ」からダウンロードいただけます。また、都道府県作業療法士会事務局には各1冊送付予定です。

タイトルや用語の検討

ガイドライン作成チームでは、タイトルおよび「外国人」という言葉の扱いについて慎重に検討しました。近年の社会情勢を踏まえると、「外国人」という言葉には区別的・批判的な印象が伴うことがあります。また、本会が推進する「誰もが主役 多様な協会へ」や、国際部が掲げる「国際的作業療法士の育成」という方向性にも配慮しました。そのため、本ガイドラインは外国人患者（対象者）を特別な存在として扱うのではなく、多様な文化的背景をもつ人への配慮に役立つヒントをまとめた資料となるよう工夫しています。

●こぼれ話

WFOTは“外国人(foreigners)”は排他的なニュアンスを含むことから、より包括的な“international”的を使用を推奨しています。私たちは日常的なにぎない会話で“foreigners”を使いがちですが、文脈に応じて“international patients”や“international applicants”等、適切な語を検討・使用する必要があります。

フィードバックをお待ちしています

本ガイドラインは今後の活用を通じて継続的に見直しと改善を重ねていく予定です。ご覧いただき、ご活用されたうえで、皆様からの感想をお待ちしています。

また、2026年度は、本ガイドラインの理解と実践をさらに深めることを目的として、事例集の作成ならびにガイドラインの内容に沿ったワークショップの開催を検討しています。事例集に掲載するケースや、ワークショップで取り上げるテーマの検討にあたり、皆様からの日々の実践から得られた貴重なご経験を本会国際部と共有いただければ幸いです。たとえば、ご自身の施設で「このような文化的配慮を必要とした利用者がいました」「このようなアプローチ・支援が特に効果的でした」等、成功事例だけでなく、課題を感じた経験や検討中の取り組み等の情報もたいへん貴重です。ぜひお気軽にご意見・ご感想をお寄せください。



●ご意見・フィードバックフォームはこちら

●ご意見・フィードバックはメールでも受け付けております。

国際部 dep.international@jaot.or.jp



会員情報 登録内容の確認・更新のお願い

事務局

毎年作成している会員統計資料作成の時期が近づいて参りました。2026年3月末時点の登録データを基に作成しますので、直近で転居や職場が変更になっていない場合も、会員ポータルサイトにログインいただき、ご自身の登録情報が最新の内容であるか今一度、確認をお願いいたします。

本誌でも繰り返しお伝えしているとおり、皆様にご登録いただいている会員情報は、協会や都道府県作業療法士会の活動方針を決めるうえで重要な基礎資料となるだけでなく、職域拡大、診療報酬、作業療法士の待遇改善等関係省庁等へ対外的な要望を出していく際の裏付けデータにもなります。登録情報の確認・更新にご協力のほどお願い

申し上げます。

会員情報は会員ポータルサイトにログインすることで、いつでも確認・更新が可能ですが、2025年度会員統計資料作成にあたり、**2026年3月31日**までに登録情報の確認・更新を行ってください。

登録情報更新に関するお問い合わせはメールで受け付けております。会員番号・氏名を記入のうえ、下記メールアドレスにお問い合わせください。

お問い合わせ先 E-mail アドレス kaiinkanri@jaot.or.jp

登録情報の確認・更新方法

日本作業療法士協会ホームページ>会員ポータルサイトへログインしていただき、勤務先、勤務状況、自宅住所等が正しいかどうかを確認してください。

会員ポータルサイトへのログインをした際に、重要なお知らせが表示される場合があります。重要なお知らせを読み、クローズ（×）をしないと登録状況に進めませんので、ご注意ください。



●会員ポータルサイトはこちら

会員ポータルサイトログイン用パスワードがない方、紛失・忘失した方

会員ポータルサイトにログインするにはパスワードが必要となります。パスワードがお手元にない、忘失した等の場合は、再発行ができます。

再発行には、会員番号と協会に登録しているメールアドレスが必要となります。

登録メールアドレスを登録していない、どのメールアドレスを登録しているかがわからなくなってしまった等がございましたら、上記メールアドレスにて事務局までお問い合わせください。

ぜひ最新の会員情報登録にご協力をお願いします。



2026年3月より 会費納入のクレジットカード決済が始まります！

事務局

会員の皆様の利便性向上を目的として、2026年3月より、従来の会費納入方法に加え、クレジットカード決済がご利用いただけるようになります。

なお、2026年1月末までに2025年度会費をご納入いただいた皆様へは、2026年度会費の「振込用紙」も郵送いたします。この振込用紙を用いて、従来どおりの方法でご納入いただくことも可能ですし、3月までお待ちいただき、クレジットカード決済によるご納入へ切り替えていただくこともできます。いずれをご選択いただいても差し支えありませんが、皆様により便利にご利用いただくため、クレジットカード決済への切り替えをお勧めいたします。

※振込とクレジットカード決済の両方で二重にご納入いただくことのないようご注意ください。

■クレジットカード対応開始日

2026年3月上旬（予定）

※初回の決済日は2026年4月中旬～下旬を予定しております。

※諸般の事情により開始日が遅くなる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

■対象となる会費

クレジットカード決済は、2026年度以降の日本作業療法士協会会費およびWFOT会費が対象となります。

※入会時の入会費・初年度の会費は対象外です。

■クレジットカード決済による会費納入方法について

2026年3月上旬より協会ホームページの会員ポータルサイトからお手続きが可能となります。詳細な操作手順は、改めてご案内いたします。

※一度クレジットカード情報をご登録いただくと、カードの有効期限内は自動的に決済が行われるため、毎年の手続きは不要です。

※クレジットカード決済に関するお手続きは、**事務局へのお電話やメールでご依頼いただいても対応はいたしかねます。**会員ポータルサイトより、ご自身でお手続きをお願いいたします。

■ご利用可能なカード

VISA / Master / JCB / American Express / Diners Club

※ご利用はご本人様名義のカードに限ります。

※一括払いのみの取扱いとなります。

■安全性について

クレジットカード決済機能は、株式会社電算システム（DSK）が提供する「DSKマルチペイメントサービス」を利用しています。

※ご入力いただいたクレジットカード情報は本会では保持せず、上記サービス内で安全に取り扱われますのでご安心ください。

■その他のご案内

本手続きの対象は、**2025年度会費をご納入済の方**に限られます。



事務局からのお知らせ

◎ 2025 年度会費が未納の方へ

「2025 年度会費納入について（最後のご案内）」ご納入のお願いと振込用紙をお送りしました。

2025 年度会費をお振り込みいただけていない方に向け、最後のご案内として会費ご納入のお願い、および 2025 年度会費振込用紙をお送りしました。当年度末（2026 年 3 月 31 日）までに会費が未納の会員は会員資格を喪失しますのでご注意ください。

ご案内がお手元に届いた方はお早目に 2025 年度会費をお振り込みください。会費納入について不明な点がございましたら、協会事務局（kaihi@jaot.or.jp）までお問い合わせください。

◎ご自身の登録情報が最新かどうかをご確認ください！

協会に登録している勤務施設は現在の職場でしょうか。協会より会員所属施設宛に配達物等をお送りすると、既に退職済みとのことで返送されてくることがあります。また、発送先を自宅宛とご指定いただいている場合、勤務施設に関する情報が更新されず、以前の勤務施設のままになっていることがあります。協会はご登録いただいている施設にその会員が所属しているものと判断しますので、ご自身の登録している勤務施設情報が最新であるかどうかを確認し、もし古い情報のままでしたら修正・更新をお願いいたします。また、転居された場合は住所の登録変更を速やかにお願いいたします。

【登録情報の確認方法】

協会ホームページより、会員ポータルサイトにログインし、「各種手続き」>「登録情報変更」で登録情報の確認・修正が可能です。

※パスワードをお持ちでない方、忘失された方はパスワードを再発行することができます（協会ホームページ>会員ポータルサイト>パスワードを忘れた方はこちら）。

◎退会に関するご案内

2025 年度をもって協会を任意退会される場合、2025 年度会費のご納入と退会届のご申請が必要となります。退会届のご申請締切は 2026 年 3 月 31 日となりますので、退会を検討されている方はお早目に会員ポータルサイトよりご申請ください。

なお、退会届をご申請いただくほか、当年度末（2026 年 3 月 31 日）までに 2025 年度会費もご納入いただく必要があります。ご納入いただけない場合は、正規の退会手続き（任意退会）とはならず、定款第 7 条に規定された会費納入義務の不履行による「会員資格喪失」となり、再入会時等で後々不利益を生じる可能性がありますのでご注意ください。

◎休会に関するご案内

1 月 31 日をもって 2026 年度（2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日）休会の受付は終了しました。

◎永年会員申請に関するご案内

1 月 31 日をもって 2026 年度から永年会員となるための申請受付は終了しました。



2025年度 災害対応力向上を目指した シミュレーション訓練のご報告

地域社会振興部 災害対策課

2025年9月25日、災害対策課は、都道府県作業療法士会の皆様のご協力のもと、大規模災害発生を想定したシミュレーション訓練を実施しました。

本訓練は、災害時における地域の被災状況や会員の安否を迅速に把握し、必要な支援を企画・実行する体制を整えることを目的として実施しているものです。2025年度も、各士会の実情に応じた柔軟な参加形式を採用し、士会役員・ブロック担当者・会員レベルでの連絡網を活用した安否確認や情報収集を実施していただきました。

本会では災害発生時における支援の迅速化と的確化を目指し、訓練で得られた知見をもとに、引き続き体制整備を進めて参ります。ご参考までに、協会ホームページ等でもご紹介しましたように、令和6年能登半島地震において本会は、以下のような対応をいたしました。

- ・被災地域の会員の安否確認（県士会で実施した内容の補完として）
- ・必要な支援に関するアンケートの実施
- ・回答内容をもとに、本会災害対策本部による支援企画の立案
- ・支援企画の実行

災害時に速やかにこれらの対応を行うためには、平時からの備えが非常に重要です。2025年度のシミュレーション訓練では、以下のようないい成果が確認されましたので、今後の参考にしていただきますと幸甚です。

良かった点のコメント

2025年度のシミュレーション訓練では、安否確認率や返信率の向上が複数の士会で確認され、継続的な訓練の成果が表れました（表1）。メールニュースやメーリングリストによる周知、災害を具体的に設定した訓練内容（図1）、直前の実災害の影響等が、会員の当事者意識を高め、迅速な返信につながりました。

また、LINEやGoogleフォーム、二次元コード等、多

様な連絡手段の活用（図2）により、情報収集の効率化が進み、即日全員からの返信を得た事例もみられました。委員間や施設・ブロックとの連携も強化され、1,000名以上の安否確認や二重確認体制の導入を実現する等、訓練が定着していましたところがありました。

課題点のコメント

2025年度のシミュレーション訓練では多くの成果が得られた一方で、安否確認率の伸び悩みや地域間の差が課題として浮き彫りになりました。全体の確認率は前年を下回り、一部地域では大幅な減少もみられました。また、メーリングリストやLINE等の連絡手段が全会員に行き届いておらず、情報の未着信や施設内での伝達不備も指摘されました。ツールの登録状況にも偏りがあり、特に自宅会員や一人職場の会員への対応が課題となっているようでした。

さらに、訓練の目的が十分に伝わっていないことによる返信行動の低調や、会員層による意識の差もみられました。

総括コメント

本年度の訓練を通じて、会員の災害リハビリテーションへの意識が徐々に定着してきた一方、災害の少ない地域では危機感や関心が薄く、継続的な啓発の必要性が指摘されました。

情報収集・伝達手段については、Googleフォームや二次元コードの活用により効率化が進んだ一方で、LINEやFAX、メーリングリストの運用には課題が残り、登録状況の偏りや情報未達への対応等の課題も明らかになっていました。

結びに、ご多用のなか、訓練にご参加・ご協力いただいた各士会の皆様に心より感謝申し上げます。今後とも、より強固な災害対応体制の構築に向けて、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

表1 シミュレーション訓練結果

実施形態	実施工会数	第一報 返答率%	最終報告 返答率%	最終報告 平均返答率%
①土会役員	9 ₍₁₂₎	46.4 _(82.3)	50.1 _(61.4)	76.6 _(88.9)
②ブロック担当者	4 ₍₈₎	80.3 _(86.2)	75.2 _(93.4)	80.7 _(97.4)
③土会員	33 ₍₃₃₎	23.6 _(25.7)	29.8 _(33.0)	41.2 _(40.1)
④その他	6 ₍₆₎	31.7 _(16.5)	54.2 _(34.4)	67.6 _(67.6)

*参加土会 47(44)
*()2024年度結果
*実施工会数:複数形態で実施している土会数含む

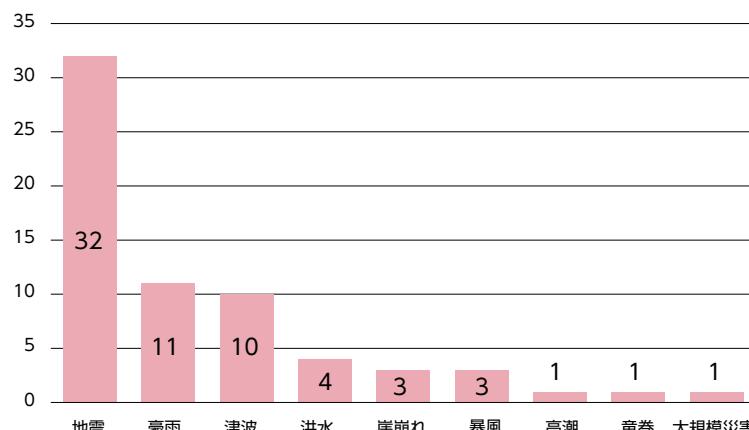


図1 訓練シナリオ

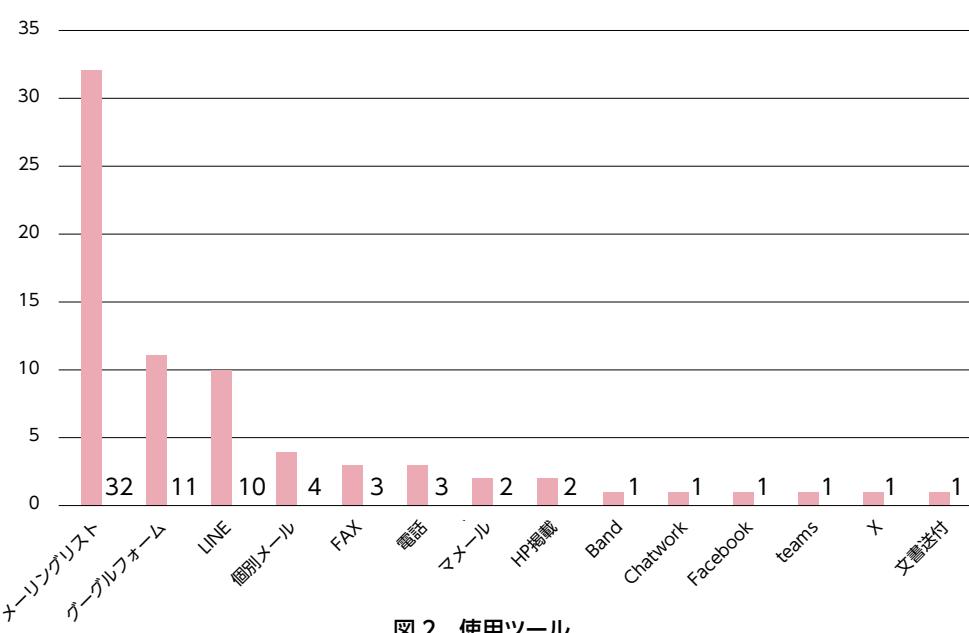


図2 使用ツール

2025 年度災害支援研修会 活動報告

2025年11月29日に地域社会振興部災害対策課主催の災害支援研修会を実施しました。

まず、本会の基本指針改定に伴う情報提供と、協会の災害支援について説明を行いました。内容として、能登半島地震発生時に本会がどのような対応を行ったかを報告するとともに、災害支援ボランティア登録者の情報がどのように活用されたかについて情報提供を行いました。

研修会では、恵寿総合病院の川上直子氏を講師としてお招きし「災害発生時にリハビリテーション職種としてどのように行動するか～実際の災害発生時の経験について～」をテーマにご講義をいただきました。能登半島地震において、災害発生直後に組織として実際に行動したことや職員個人として経験したこと、それらを踏まえて今後に向けて備えるべき点についてのご提案等、たいへん興味深い内容でした。

その後、グループディスカッションを実施し、研修会参加者同士で意見交換を実施しました。災害が発生した際、自分自身の所属する組織ではどのように対応するか、どのような備えが不足しているか、個人として備えると良いことはどのようなことか等、川上氏の講義内容を踏まえて、同じ領域（病院や介護施設、教育機関等）に属する参加者同士でディスカッションすることで活発な意見交換となりました。

本研修について、参加者のアンケート結果の一部を紹介します。多くの受講者より、日々の生活において災害に対する備えを実践したいという回答を得たことがお分かりいただけると思います（図3）。来年度以降の研修会については、参加者の方々よりいただいたご意見などを参考に、今後検討をしていく予定です。

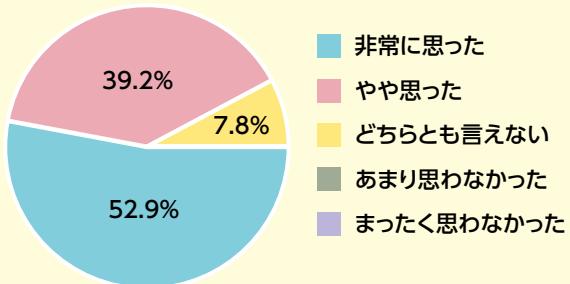


図3 今回の研修会に参加して、受講した内容を仕事や日常で実践したと思ったか



2025年度第5回定例理事会 理事会レポート

2025年12月20日、2025年度第5回目となる定例理事会が開催されました。ここでは当日行われた報告・審議から、協会の最新動向として会員の皆様に知っておいていただきたい重要な話題をピックアップしてレポートします。

→ 理事会抄録は p.24 ~ 25

事務局人事および 協会組織の整備について

事務局人事については本誌および協会ホームページで事務局長職の募集を行っていましたが、三役面接の結果、長倉寿子氏（会員番号1006）を採用し、2026年4月から雇用したい旨、山本伸一会長より報告があり承認されました。長倉氏の着任の挨拶については、本誌第169号（2026年4月15日発行予定）に掲載する予定です。

協会組織については、総務部に新たにシステム管理課を設置することが承認されました。今年度、本会のシステムがリニューアルされましたが、これを持续可能なものとするためにシステム管理課が新設されます。また、「協会員＝士会員」実現のため、士会システムの活用促進も同課が中心となって図っていきます。

また、特設委員会の設置・継続も承認されました。新設されるのは60周年事業実行委員会で、委員会規程に基づき委員の委嘱等を行っていきます。活動が継続されることとなったのは、運転と地域移動推進委員会で、社会的要請と組織課題に基づき、活動を3年間延長することとなりました。

2040年を見据えた作業療法提供体制のあり方 今後の本会の動きを決議

2025年度第4回定例理事会（2025年10月18日開催）で審議された「2040年を見据えた作業療法提供体制のあり方」について、各ワーキンググループで作成した報告案を見直し、今回提案されました。

2024年12月、国は2040年頃を見据えた新たな地域医療構想を取りまとめました。この構想では、限りある

医療資源を最適化・効率化しながら、地域完結型の医療・介護提供体制の構築を目指す必要性が示されています。具体的には、入院医療から在宅医療への転換、急性期からの早期リハビリテーション、早期退院後の地域リハビリテーションのあり方、かかりつけ医との連携、5歳児健診後の支援、精神科医療の地域医療構想等に対して、作業療法士がどのように対応するのかを明らかにすることが國から求められています。

これに対して本会は、①子ども領域に対する医療、福祉、学校における作業療法、②高齢者に対する救急と増加する在宅医療における作業療法、③地域医療構想にも対応した精神科医療における作業療法の機能と役割を整理し、取り組むべき方向性を本会会員に示し、2040年に国民に対して貢献できる作業療法士のあり方を提案することを決議しました。今後は会員にパブリックコメントを求め、来年度、渉外活動や会員への情報提供、意見交換会等、総合的対策を推進する見通しです。

参院選候補者への本会組織代表擁立について 6団体に申し入れへ

2028年に実施される第28回参議院議員選挙の候補者に竹中佐江子氏を擁立したい旨を6団体（本会と一般社団法人日本作業療法士連盟のほか、公益社団法人日本理学療法士会、一般財団法人日本言語聴覚士協会、公益社団法人日本理学療法士連盟、一般社団法人日本言語聴覚士連盟）に申し入れ、本会として支援することが承認・決議されました。

これまでリハビリテーション専門職としては、日本理学療法士協会が組織代表を擁立し、本会もその政策に賛同し応援してきました。今回は、本会でも組織代表を立て、他団体の組織代表と合わせて協議して6団体統一候補を擁立していくことになります。

なお、今回の本会組織代表就任は竹中氏の立候補によるもので、6団体の統一候補として擁立・参院選への立候補が決まった場合は本会副会長職を退任することとなります。

精神科作業療法領域

前号では、本会が推進する「ICF（国際生活機能分類）に基づく疾患別作業療法標準化事業」の背景、推進体制、そして「①疾患別アセスメントセット・手引きの作成と介入内容の枠組みの作成」「②全国規模の実態調査から介入研究へ」「③アウトカムの検証・明示」「④関連学会との連携・ステートメント化」という4つの柱を概観しました。

本稿では、その具体的な取り組みの一つとして、「精神科領域におけるICFに基づく作業療法アセスメントセット」の開発状況と、臨床実装に向けた検討のポイントを紹介します。なお、本デルファイ調査の研究内容は、現在、英文雑誌に投稿中です。

地域包括ケア推進と、精神科作業療法計画におけるICF活用の課題

近年、地域共生社会の実現に向けて、国としても「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築が推進されています。こうした流れのなかで、地域生活を支える作業療法には、医療機関内の評価にとどまらず、生活機能、社会参加、環境要因までを含めた見立てと支援計画がより一層求められます。

本会でも、ICFに基づく個別の精神科作業療法計画の立案について検討が進められてきました。本会発行の「作業療法ガイドライン2024年度版」では、対象者を包括的に評価するためにICFの活用が推奨されています。しかし、精神科作業療法計画を立案する際に、具体的にどのICF項目を優先して評価すべきかについては、明確な合意が十分に整っていない状況がありました。

WHOのICFコアセットと、臨床での「ずれ」

精神障害に関連したICFの評価セットとして、WHO（世界保健機関）により統合失調症、双極性障害、うつ病に関するICFコアセットが整備されています。

一方で、我々の予備的事前調査では、これら3つのICFコアセットに含まれるICFコードと、臨床現場において精神科作業療法計画の立案で実際に用いられているICFコードの間に相違があることが示唆されました。すなわち、精神科作業療法計画の立案には、疾患特異的なICFコードだけでなく、作業療法に特徴的なICFコードが存在する可能性があると考えられました。

「精神科領域におけるICFに基づく作業療法アセスメントセット」の開発

精神科作業療法計画に必要となるICFコードを明らかにし、その適切性を検証することで、精神科領域におけるICFに基づく作業療法アセスメントセットを開発することを目的として、デルファイ調査を実施しました。概要を図1に示します。

この調査に協力した専門家は、公益社団法人日本精神神経学会、公益社団法人日本精神科病院協会、公益社団法人全国自治体病院協議会から推薦を受けた医師5名と、本会から推薦を受けた作業療法士10名の計15名でした。このうち医師1名が参加を辞退し、14名が調査に参加しました。

ワーキンググループは、前組織の学術委員会ICF小委員会を中心に結成しました。

方法は、ほかの領域と同様にデルファイ法によるアンケート調査です。デルファイ法は、複数ラウンドの質問票とフィードバックを通じて合意形成を進める方法であり、各ラウンドで集約結果を共有しながら再評価する点に特徴があります。

第1ラウンドのアンケート表は、ICFコアセット、ICFチェックリスト、各種診療ガイドライン、ならびに事前調査を参考に作成しました。各ラウンド終了後に結果をワーキンググループおよびパネリストと共有し、ICF項目の追加・修正

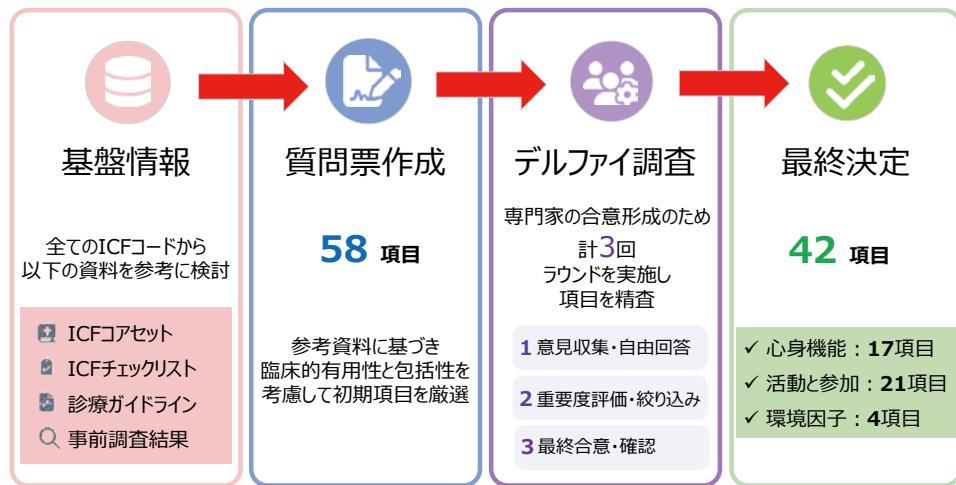


図1 デルファイ調査の概要

心身機能	活動と参加	環境因子
<p>b114 見当識機能 b117 知的機能 b122 全般的な心理社会的機能 b126 気質と人格の機能 b130 活力と欲動の機能 b134 睡眠機能 b140 注意機能 b144 記憶機能 b147 精神運動機能 b152 情動機能 b156 知覚機能 b160 思考機能 b164 高次認知機能 b167 言語に関する精神機能 b180 自己の時間の経験の機能 b455 運動耐容能 b530 体重維持機能</p>	<p>d155 技能の習得 d163 思考 d175 問題解決 d177 意思決定 d210 単一課題の遂行 d220 複数課題の遂行 d230 曲課の遂行 d240 ストレスとその他の心理的欲求への対処 d350 会話 d470 交通機関や手段の利用 d520 身体各部の手入れ</p>	<p>d570 健康に注意すること d620 物品とサービスの入手 d630 調理 d640 調理以外の家事 d710 基本的な対人関係 d720 複雑な対人関係 d760 家族関係 d845 仕事の獲得・維持・終了 d860 基本的な経済的取引き d920 レクリエーションとレジャー</p>

図2 精神科作業療法アセスメントセット（42項目）

を行うプロセスを3回繰り返しました。

結果として、第1ラウンドの項目数は58でした。第1ラウンド終了後、結果共有を行い、12項目を削除、4項目を追加しました。

第2ラウンドは50項目となり、終了後に結果共有を行い、4項目を削除、2項目を追加しました。

第3ラウンドは48項目となり、終了後に結果共有を行い、6項目を削除し、最終的に42項目が精神科作業療法ICF評価セットとして抽出されました。

抽出された42項目の内訳は、心身機能17項目、活動と参加21項目、環境因子4項目でした（図2）。これにより、症状や機能障害に偏らず、生活機能全体を横断

して捉える評価枠組みとして、臨床推論と計画立案を支えるセットを提示できるかたちとなりました。

臨床での使いどころ

作業療法アセスメントセットは、チェックリストとして機械的に埋めることを目的とするものではなく、「見立ての抜け漏れを減らし、臨床推論の共通土台をつくる」ことを意図しています。想定される活用場面は、たとえば以下のとおりです。

●初期評価の整理

入院・外来・デイケア・訪問等、場面が異なっても、共通の枠組みで生活機能の全体像を把握しやすくなります。

●目標設定と介入計画の明確化

活動と参加の課題を明示し、必要なスキル獲得、環境調整、支援資源の調整へつなげやすくなります。

●多職種・多機関連携

主観的表現になりやすい領域でも、ICF カテゴリーを手掛かりに情報共有の焦点を揃えやすくなります。

●成果の説明

支援の成果を、症状だけでなく生活機能の変化として提示しやすくなり、本人・家族や他職種への説明にも活用できます。

●データ蓄積の基盤

項目が標準化されることで、施設横断での実態把握やアウトカム検証に向けたデータ統合が現実的になります。

今後に向けて

現在、アセスメントセット（精神科）を臨床でより使いやすくするために、評価手順、記載例、そして各 ICF コードの解釈を整理した「評価セット活用の手引き」を作成中です。ICF カテゴリーは有用である一方、用語が抽象的に感じられたり、どの情報を根拠に判断するかが施設によって異なったりすることがあります。そこで、現場での再現性と運用のしやすさを高める観点から、以下のような論点を中心に検討を進めています。

- ・そのコードを精神科作業療法でどう解釈するか
- ・似たコードの使い分けをどうするか（混同しやすい概念や用語の整理）
- ・どの情報源を手掛かりに判断するか 等

完成の折には、ぜひ日々の評価や支援計画の立案、チーム内の共通理解の形成、さらには地域連携の情報共有にもご活用ください。標準化事業の趣旨である「全国の作業療法実践の可視化」と「疾患別エビデンス創出」に向けて、現場で使えるかたちに整えたうえで公開していく予定です。公開まで今しばらくお待ちいただければ幸いです。

【参考文献】

- 1) 日本作業療法士協会：作業療法ガイドライン 2024 年度版. https://www.jaot.or.jp/files/page/gakujutsu/guideline/OT%20guideline_2024.pdf (閲 覧 2025/12/18)
- 2) 日本作業療法士協会：作業療法マニュアル 79 精神科作業療法計画の立て方. 中央法規出版, 2023.

受講していますか？ 活用していますか？ 前期研修 e ラーニング講座のすすめ

登録作業療法士制度は2025年度から始まった生涯学修制度で、登録作業療法士になるための最初の2年間の研修（座学+実地経験）が前期研修です。座学についてはすべてeラーニングで受講できます。

前期研修eラーニング講座は、インターネット環境があればいつでもどこでも受講可能です。パソコン、スマホ、タブレットで視聴でき、「自宅や職場ではパソコンで、移動中はスマホやタブレットで」といったかたちで、シーンに合わせて使い分けていただくこともできます。そして、料金は本会会員であれば全講座無料です！

講座の構成（どんな内容？）

前期研修eラーニング講座は、以下の3パートで構成されています。コンパクトに構成されていますので、どんどん受講していくことができると思います。

内容	説明
講義動画 (約30分)	テーマごとに講義動画を視聴してください。A～Cの領域や講座の受講順序に決まりはありません。好きな講座から進められます。
確認テスト	動画内容の理解度チェック。合格するまで何度も受けることができます。
受講後アンケート (必須)	アンケートへのご回答をもって修了となります。忘れずにご回答をお願いいたします。

前期研修eラーニング講座数は70講座です。A～Cの3領域があり、A領域は「作業療法士基礎力～臨床実践のための基礎知識～」、B領域は「作業療法分野横断的基礎力～臨床実践のための共通知識～」、C領域は「作業療法分野特異的専門力～臨床実践のための専門知識～」です。各講座のテーマについては本会会員を対象に実施したアンケートの結果を参考にして構成しました。

2025年度入会者のうち、2026年1月8日時点では500名以上の方が学習を開始しており、A領域で120名、B領域で50名、C領域で37名の方が既に各コースを修了しています。さらに、29名の方がA～Cの3領域すべての受講を修了されました。

このeラーニング講座は、2025年度入会者が登録作業療法士取得を目指すうえでは受講が必須ですが、それ以前の入会者も含めて全会員が講義動画を無料でいつでも視聴できます。

2024年度までに入会された会員の方は、初回の視聴から再生速度を変更することができ、確認テストとアンケートもありません。これは、2024年度以前に入会されて学修の蓄積がある方には「復習」や「既習知識のアップデート」としてより便利に活用していただきたいこと、さらには次ページのコラムに挙げた事例のような使い方をしていただきたいからです。一方、2025年度からの入会者の方は、初回の受講では再生速度の変更はできません。これは初めて触れていただく講座にはじっくり取り組んでいただきたいからです。2回目以降の視聴では再生速度を変更できますので、スピーディに復習して知識の定着を図ってください。

e ラーニング講座へ簡単ログイン

早速、視聴サイトにログインしてみましょう。

なお、パスワードを忘れてしまっても、メールアドレスと秘密の質問を登録していれば再設定できます。

- ・ログイン画面⇒【パスワードをお忘れの方はこちら】

⇒再設定

- ・秘密の質問⇒ログイン後にサイドメニューの【プロフィール】から設定

※秘密の質問設定前にアカウントロックがかかってしまった場合は、事務局までお問い合わせください。

●前期研修 e ラーニング講座は“みんなで学べる”学修ツール

「新入職員に声をかけて視聴する講座と期限を決めて、私も同時期に視聴して、内容をディスカッションしています」や「内容を確認して、いくつかのテーマは職場での研修会に替えて全職員にこの講座を見てもらうかたちをとっています。講義準備をしなくてよいので業務負担が減りました」といった活用事例を聞いています。

また、経験が長い会員の方からも、「知識をアップデートできた」、「改めて基本的な講義を聞くと新たな発見があって勉強になる」という声をいただいています。

表1 生涯学修制度 登録作業療法士前期研修 e ラーニング講座一覧 (2025 年度)

A 領域 作業療法士基礎力 ～臨床実践のための基礎知識～		B 領域 作業療法分野横断的基礎力 ～臨床実践のための共通知識～		C 領域 作業療法分野特異的専門力 ～臨床実践のための専門知識～	
テーマ		テーマ		テーマ	
1 職業倫理①【法律、社会全体に関する内容】	1 一次救命処置①【基礎】	1 身体障害 脳血管障害①【急性期】			
2 職業倫理②【作業療法領域での倫理】	2 一次救命処置②【手技】	2 身体障害 脳血管障害②【回復期】			
3 職業倫理③【臨床、実習指導での対応】	3 クリニカルリーズニング①【基礎】	3 身体障害 脳血管障害③【生活期（維持期）】			
4 協会組織【作業療法定義・対象・目的】	4 クリニカルリーズニング②【面接の活用】	4 身体障害【がん】			
5 作業療法の動向①【世界から見た日本の動向と現状】	5 クリニカルリーズニング③【活動分析の活用】	5 身体障害 整形疾患①【骨折、骨折関連】			
6 作業療法の動向②【世界の動向と現状】	6 クリニカルリーズニング④【統合と解釈】	6 身体障害 整形疾患②【脊損】			
7 作業療法の動向③【国際交流、国際協力】	7 クリニカルリーズニング⑤【効果判定】	7 身体障害【内部障害】			
8 作業療法における協業①【対象者、家族】	8 作業療法研究①【作業療法実践とエビデンス】	8 身体障害【難病】			
9 作業療法における協業②【多職種連携】	9 作業療法研究②【臨床研究概論】	9 精神障害 統合失調症①【急性期】			
10 作業療法における協業③【災害時の対応、平時の取り組み】	10 作業療法研究③【研究結果のみかた】	10 精神障害 統合失調症②【回復期～生活期（維持期）】			
11 マネジメント【リーダーシップとセルフマネジメント】	11 作業療法研究④【医療統計】	11 精神障害【気分障害】			
12 介護保険制度【概論】	12 作業療法研究⑤【学会発表・論文発表】	12 精神障害【依存症】			
13 医療保険制度【概論】	13 作業療法研究⑥【事例報告】	13 発達障害【脳性麻痺】			
14 障害者総合支援制度【概論】	14 リスクマネジメント①【感染予防・対策】	14 発達障害【重症心身障害】			
15 地域包括ケアシステム【概論】	15 リスクマネジメント②【暴力リスクアセスメント】	15 発達障害【神経筋疾患】			
16 作業療法実践に関する記録・報告【概論】	16 保健・医療・福祉と地域支援①【地域包括ケアシステム】	16 発達障害 神経発達症①【基礎】			
17 作業療法生涯学修概論①【OT 協会・都道府県土会】	17 保健・医療・福祉と地域支援②【共助、互助】	17 発達障害 神経発達症②【作業療法実践】			
18 作業療法生涯学修概論②【生涯学修制度】	18 保健・医療・福祉と地域支援③【特別支援、総合支援法】	18 老年期障害【廃用症候群】			
19 作業療法士の働き方・展開①【キャリア形成】	19 MTDLP 基礎【概論】	19 老年期障害 認知症①【基礎】			
20 作業療法士の働き方・展開②【ワークライフバランス】	20 MTDLP 基礎【活用】	20 老年期障害 認知症②【作業療法実践】			
	21 老年期障害【介護予防】				
	22 老年期障害【地域リハビリテーション】				
	23 司法領域の作業療法【概論】				
	24 義肢装具【種類、目的、適応、制度】				
	25 福祉用具①【シーティング、ポジショニング】				
	26 福祉用具②【各種用具、自助具】				
	27 自動車運転【再開に向けた取組み】				
	28 就労支援【復職の流れ、各種サービス】				
	29 住宅改修【概論】				
	30 高次脳機能障害【概論】				

eラーニングの受講

視聴にあたっては、配信システム「Cloud Campus」を使用します。

URL <https://ccampus.org/>

ログインID：jaot-xxxxxx
※「xxxxxx」にはご自身の6桁の会員番号（5桁以下の番号の方は頭に0をつける。
例：会員番号がxxxxの場合は「jaot-00xxxx」と入力する。）

ログインパスワードは初回ログイン時に変更するよう求められます。

サイトID：jaot

初回ログインパスワード：
生年月日8桁
※2000年4月1日生まれであれば「20000401」

Cloud Campus

【定期メンテナンスのお知らせ】
定期メンテナンスのため、
11月13日（木）19:00～23:00は全サービスを停止致します。
受講される方は、必ずシステムメンテナンス開始時間前までに受講を終了してください。
受講中にシステムメンテナンスになると受講履歴が記録されません。
ご不便をおかけ致しますが、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

jaot

ログインID

パスワード

サインイン

パスワードをお忘れの方はこちら

ログインページはパソコンのブラウザにブックマークする、スマホのホーム画面にショートカットを作成しておく等すると簡単にアクセスでき、学修継続しやすくなります！

おわりに

繰り返し試聴・復習できるのもeラーニングの良いところです。また、離島やへき地で勤務されていても、職場が365日体制で動いていても学びの機会を確保していただきたいと導入したものです。あまり構えずに、まずはどのような内容が講義されているのか、お気軽にご視聴ください。

2025年度の新入会員の皆様はご自身の業務や興味・関心を取り口として学修を開始し、徐々に学びを広げ、深めていただければ登録作業療法士に近づきます。2024年度までに入会した既存会員の方は復習、アップデート、後輩育成の参考などに使っていただけると思います。皆様、是非ご活用ください。



事務局だより～高校生のお客様をお迎えして

事務局

高校生が本会を取材してくれました

本会事務局にはいろいろなお客様がいらっしゃいますが、昨年10月29日、高校生の伊澤深月さん（ぐんま国際アカデミー高等部1年）が訪ねてくれました。実は本会事務局への訪問は今回で二度目。一度目は一昨年8月、伊澤さんはまだ中学3年生（同校中等部3年）でした。学校の課題（後述）を通じて作業療法に关心をもち、その社会的ニーズについて調べるためのインタビュー取材で訪れました。取材には作業療法士の事務員が対応し、作業療法（士）を取り巻く現状について概要をお話しました。その後も伊澤さんとは追加取材やアンケート調査、イベント等で交流が続いていきました。

そして今回、伊澤さんは、文部科学省および民間企業が主催する留学促進キャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」第10期派遣で訪れたアメリカでの研究成果を報告するため、事務局を再訪してくれました。学校の課題学習や本会事務員との交流を通じて、さらに作業療法への関心を深めた伊澤さんは、地域社会に作業療法が広く普及しているアメリカに興味を惹かれ留学先に決めたそうです。

伊澤さんと作業療法の出会い

そもそも伊澤さんが作業療法に興味をもったきっかけは、先述したように中学3年生の時でした。学校の課外活動で、「社会課題に対して、自分のやりたいことや興味のあることで貢献できるニーズを調査し、課題解決のアウトプットをする」というプロジェクト学習に取り組みました。書道に親しんできた伊澤さんと福祉に関心のあるクラスメイトがペアになって「書道×福祉」をテーマに学習を開始しました。

「書道と福祉に何かかかわりがないかを調べていたところ、書道が作業療法に使われていることを知りました。今まで『自分の上達のため』『自分の心を落ち着けるため』にやっていた書道ですが、それは認知症等の予防にも活用



伊澤深月さん

されていることを知って、作業療法に興味が湧いたのです。」

伊澤さんたちは作業療法についてより詳しく知るために本会事務局への取材を行い、課題学習のアウトプットとして、昨年1月には地域でイベントを開催しました。作業療法に対する地域住民のニーズ向上を目標に、未就学児～小学生および保護者を対象に、「オリジナルスノードームづくり」を通じて作業することの楽しさを感じてもらいながら、作業療法（士）について知ってもらうイベントとなりました（写真1）。このイベントには本会事務員もお邪魔しました。

「取材のなかで、日本ではまだまだ作業療法の認知度が低いというお話をうかがいましたが、さらに調べてみると日本に比べてアメリカでは作業療法の認知度が高いこともわかりました。そこで、作業療法とも関連する『人生の豊かさ』というテーマを軸に、日本とアメリカで作業療法士の考え方方に違いがあるのかを知りたくなったんです」

こうして伊澤さんは「トビタテ！留学 JAPAN」に応募し、アメリカ・カリフォルニア州へ留学することになりました。

作業療法と「人生の豊かさ」のリンク

伊澤さんが留学で取り組んだ研究テーマは「作業療法



写真1 イベントでのスノードームづくりの作業の様子



写真2 国内施設の見学として公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院（群馬県）を訪問

を通じた豊かな生活に関する考察—アメリカ・カリフォルニア州における留学を通して—。この研究は、作業療法を通じて人々の生活の「豊かさ」につながる要因を探ることを目的としたもののこと。

伊澤さんは留学に先立って、まずは日本の現状を理解すべく、日本国内の作業療法士33名を対象としたアンケート調査を行い、加えて、主に高齢者を対象とした施設を見学（写真2）。その時の印象を次のように述べています。

「日常生活のなかで自立を支えるための短期的かつ具体的な目標を設定し、生活の質向上を目指していることが印象的でした。作業療法士は利用者の現状を最大限尊重しながら、悪化を防ぎ、生活の安定を支える実践的で着実なサポートを行っておられ、現場全体は落ち着きと温かみのある雰囲気でした。また、地域との連携や在宅支援等、多職種との協働を通して『生活の場に近いリハビリ』を模索する取り組みもみられ、作業療法士の方々の工夫や努力も印象に残っています。」

アメリカでは、作業療法を行う発達障害児支援施設でのボランティア活動に参加し、小児作業療法施設や北米最大級の統合のがん治療センター、地域包括支援センター、発達支援・障害者サポート機関、専門クリニック等、たくさんの施設を訪問したそう（写真3）。これらの施設で働く作業療法士へのインタビューやアンケートを行い、日本とアメリカの作業療法士の働き方や生活観を比較して、作業療法を通じて得られる「豊かさ」とは何かを考察しました。

「調査を通じて、日本の作業療法士は豊かさを時間、お金、人間関係等、現実的・安定志向の要素として捉える傾向があり、アメリカではキャリアの成長、挑戦、信仰等、将来を見据えた精神的・文化的要素を重視する傾向があることがわかりました。アメリカでは作業療法の主な対象が子どもであり、リハビリテーションは未来志向的であるのに対し、日本では高齢者が中心で、現状維持や生活の安定を目的とする支援が多いようです。そのため、支援者である作業療法士の意識にも未来志向と安定志向というかた



写真3 留学時に見学したカリフォルニア州の小児作業療法施設

ちで、日米で違いが生じているのではないかと思いました。」

伊澤さんは今回の研究をこのように結論付けました。まだ調査対象数が少ないので今後の課題とのことですが、日米における作業療法の普及度や位置付けの違いから作業療法士自身の意識にスポットを当てる着眼点や、作業療法の核心を理解し、本会の基本理念とも通じる「人生の豊かさ」をキーワードに据えて研究をされたことに事務局一同、たいへん感銘を受けました。

若い世代の関心と共感はパワフル

将来がとても楽しみな伊澤さんですが、今後の進路はどうのように考えているのでしょうか。

「私自身が作業療法士になりたいかどうかはまだわかりません。今回はアメリカに留学しましたが、もっといろいろな国も見てみたいです。留学先でとてもお世話になった方は、

35歳になってから作業療法士を目指したそうなんです。その方から『自分の可能性を狭めないで、いくつになっても自分のやりたいことは何でも挑戦したほうがいいよ』と言っていたいただきました。まずはこれからいろいろなことに挑戦して、自分のやりたいことを見つけていきたいなと思っています。」

将来、伊澤さんが作業療法士になってくれたら嬉しい限りですが、そうならなくとも、こうして作業療法に関心と共に感を寄せててくれる若い世代の方がいることはたいへん心強いです。本会は第四次作業療法5ヵ年戦略および例年の重点活動項目で、小・中学生をはじめとした次世代や保護者、教職員への広報の重要性を挙げています。ぜひ会員の皆様も機会があれば、若い世代との交流をお願いできれば幸いです。

第 60 回日本作業療法学会(新潟)のご案内



2026 年度の日本作業療法学会は新潟で開催されます。これまで同様に現地・オンデマンドのハイブリッド開催を予定しています。現在演題募集中です。皆様の演題登録をお待ちしております。

【開催概要】

○テーマ

脳機構から読み解く作業療法の挑戦—『作業』によってあなたも私も満たされる—

○会期

現地開催：2026 年 11 月 20 日（金）、21 日（土）、22 日（日）（日曜日午前で終了）

オンライン配信：2026 年 11 月 20 日（金）～2027 年 1 月 11 日（月）

○会場

朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

○学長

種村 留美（関西医科大学 リハビリテーション学部）

○主なプログラム

学長講演、招待講演、基調講演、教育講演、シンポジウム、国際企画プログラム、教育セミナー、一般演題、アフタヌーンセミナー、企業展示、養成校・大学院説明ブース、病院・施設説明ブース、書籍販売 など

○演題募集期間

2026 年 1 月 13 日（火）正午～2 月 27 日（金）23 時まで

演題募集要項については、第 60 回日本作業療法学会（新潟）のホームページでご確認ください。

学会ホームページは順次公開いたしますので、学会の詳細につきましては右記の二次元コードよりアクセスしご確認ください。



●第 60 回日本作業療法学会
ホームページはこちら



各部・室の動き

教育部

●第61回作業療法士国家試験について

第61回作業療法士国家試験が2026年2月23日・24日に実施されます。例年、国家試験問題について採点を除外すべき問題の指摘と意見書の作成を実施しています。今年度も学校養成施設におかれましては調査へのご協力をお願いいたします。

●WFOT認定校審査について

WFOT認定審査は、リハビリテーション教育評価機構（以下、JCORE）が設立されて以降は、JCOREの評価基準がWFOTの評価基準をほぼ網羅しています。またJCOREの運営に本会も協力していることから、JCOREに審査書類を提出していただく述べで、同時にWFOT認定審査を実施しております。2026年度審査については、JCOREから2026年2月に審査対象校等に審査のご案内が届きますので、審査に向けたご準備をお願いいたします。

また、WFOT単独審査を希望される学校養成施設で、2026年12月31日で有効期間が切れる施設、未認定の施設におかれましては、2026年3月31日までに下記のメールアドレスまでWFOT単独審査希望のメールをご送付ください。WFOT単独審査のご案内をさせていただきます。

申請先アドレス：教育関連審査会 ot-edushinsa@jaot.or.jp

なお、WFOT審査は「作業療法士教育の教育水準」（改訂第5.1版）に則って審査を行っております。協会ホームページに掲載しておりますのでご確認をお願いいたします。

●作業療法士学校養成施設連絡会について

この連絡会は年に3回実施しております。今の協会の動きを伝え、情報を共有する場として設置しております。第1回、第2回では、指定規則改正に向けた動き、協会入会に向けた学校養成施設の取り組み、新生涯学修制度等についての情報提供がされました。第3回目は2026年2月17日（火）12:20～13:50を予定しております。ご案内は各作業療法士学校養成施設の情報担当者様に配信しております。少なくとも1名はご参加くださいますようお願いいたします。



●「作業療法士教育の教育水準」はこちら

役員辞任に関するお知らせ

平素より当会の活動に対し、温かいご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この度、当会役員 上田裕久より2026年1月5日付で役員辞任の申し出があり、受理いたしましたのでご報告申し上げます。



2025年度第5回定例理事会抄録

日 時：2025年12月20日（土）13:00～17:40

場 所：日経・大手町セミナールーム2A（千代田区大手町1-3-7 日経ビル6階）

Zoomによるオンライン参加併用

出席：山本（会長）、大庭、竹中、谷川（副会長）、小林、関本、高島（[〒]）、高橋、辰己、谷口、早坂、村井（常務理事）、池田、岩上、澤田、島崎、土居、友利、東、松尾、三澤（理事）、岩瀬、香山、澤（監事）

陪 席：安藤（辻・本郷税理士法人）、鈴木（辻・本郷社会保険労務士法人）、宮井、岡本、茂呂、和久、岩花（事務局）

I. 報告事項

1. 職務執行状況報告

1) 山本伸一会長

- ・公明党での要望活動 11月12日の公明党リハビリテーション専門職制度推進議員懇話会において、賃上げ等の6項目について要望した。
- ・リハビリテーションを考える議員連盟での要望活動等 11月26日、連盟の総会に出席し、3療法士の基本報酬体系の見直しや身分法の改正、厚労省のリハビリテーション課の設置等を要望した。
- ・高次脳機能障害者支援法成立に寄せて：今後の課題と期待 12月17日の立憲民主党会派厚生労働部門会議で今後の課題について説明した。

2) 大庭潤平副会長

- ・代議員選挙における候補者クオータ制の導入と関連規程の改定に向けて 候補者クオータ制導入による現状を調査した。また、代議員選出規程の改定案を作成中である。
- ・損保ジャパン社の事故報告について 損保ジャパン株式会社の手続ミスが再度発生したため、当事者会員に説明等対応した。保険会社の見直しの検討を進めている。
- ・2026年度定時社員総会の議案書原稿について 書面報告
- ・「一部の福祉用具に係る貸与と販売の選択制の導入に関する調査研究事業」令和7年度介護報酬改定に係る効果検証・研究 書面報告
- ・その他 鈴木明子先生を偲ぶ会（仮称）を2026年5月31日に建築会館で開催する。

3) 竹中佐江子副会長

- ・厚労省へのリハビリテーション専門職の処遇改善調査結果の報告と要望について 書面報告
- ・2025年10月期の収支状況について（含「月別入会者数」） 入会者数予測2,989名に対し、現状2,900名である。今年度は再入会が増えている。
- ・2026年度予算申請状況とヒアリングの実施について 各部署から申請のあった事業費は約9億2,300万円である。収入は約8億900万円を見込んでいる。5ヵ年戦略の中間評価および2026年度事業の妥当性について各部署へのヒアリングを行った。
- ・その他 国および東京都の規程の改正に伴い、宿泊規程の見直しを検討している。

4) 谷川真澄副会長

- ・会議資料の提出期限と資料の種類 理事会資料の提出期限を早める仕組みを2026年4月から実行する。その試行運用を2月から開始する。
- ・理事会におけるワークフローシステムの導入について 会議資料の提出に関する2月の試行運用に合わせてワークフローシステムの試験導入を検討した。
- ・第四次作業療法5ヵ年戦略の中間見直しについて 各理事からの意見を集約し、最終案をまとめた。2月理事会で決議する。
- ・「協会員＝士会員」の進捗と予定の報告について 書面報告

5) 小林毅常務理事

- ①明石モデルの報告書の内容について報告するプロジェクトを推進する。②白書委員会は2026年度調査に向けて目次と調査票を作成中である。③災害ワーキンググループで支援金運用規程およびそれに付随する規程案を作成した。

6) 関本充史常務理事

協会長・士会長会議（よんぱち）を2026年2月28日、Zoomによるオンライン形式で開催する。

7) 高島千敬常務理事

- 書面報告
- WFOTウェブサイトにQUEST改訂版の掲載について書面報告
- WFOTコンгрス2026期間限定のオープンチャットの開設について LINEのオープンチャットを開設した。今後会員に向けて広報する。
- 「多様な文化的背景をもつ外国人に対する作業療法ガイドライン」の完成について 会員以外には配布できない。

9) 辰己一彦常務理事

- 日本ボッチャ協会「ボッチャ未来創生プロジェクト」への理解と協力について 書面報告

10) 谷口敬道常務理事

- 理学療法士および作業療法士教育の見直しについて（案） 書面報告
- 認定作業療法士読み替え申請者数および登録作業療法士制度前期研修eラーニング講座受講者数について 書面報告
- 専門作業療法士制度（摂食嚥下分野）に係る大学院との連携について 書面報告

- ・登録作業療法士制度後期研修「座学・演習」研修シラバスについて 書面報告
- ・『作業療法学全書第4版』発刊に向けた作業進捗について 書面報告
- 11) 早坂友成常務理事
 - ・日本国内における台湾・高雄市立病院の視察団への対応と同行について 書面報告
- 12) 村井千賀常務理事 日本認知症官民協議会の認知症イノベーションアライアンスWGから、認知症に必要な製品を開発するに当たり、本会に協力依頼があった。その窓口を制度対策部に設置する。
- 2. 理事の渉外活動報告 書面報告
- 3. 中間監査報告について（岩瀬監事）本会の財政および収支は、法令・定款に基づき適正に運用されている。効率的・効果的な事務局運営が図られるよう付言する。
- 4. 委員会等からの答申・提言等
 - 1) 運転と地域移動推進委員会の継続について（答申） 書面報告
- 5. その他の報告

II. 決議事項

1. 諸規程の整備

- 1) 賛助会員規程の改定および細則の整備について（大庭副会長）賛助会員特典を生かした改定をしたい。本則は基本規定とし、具体的な広報媒体の特定やその割り率等を細則に定める。 →承認
- 2) 学会運営の手引きの改定について（早坂常務理事）日本作業療法学会の学生参加費を学会企画運営班で検討し、手引きの改定案を作成した。 →承認
- 3) 役員報酬に関する規程改定案の検討・作成方針について（谷川副会長）規程改定案検討班を組織して原案を作成する。本会の原資を安定的に確保するための考え方や方法について検討し、将来的に部員・室員、委員等への報酬支給の可能性も視野に入れる。2027年5月の総会に決議事項として上程し、同年6月から施行することを目標に進める。 →審議事項名を「協会業務報酬に関する検討方針について」と修正し、承認

2. 協会組織の整備

- 1) 総務部におけるシステム管理課の新設について（大庭副会長）本会のシステムを持続可能なものとし、「協会員＝士会員」実現のための士会システムを活用促進するため、システム管理課を新設する。システム管理課長には総務課システム担当の磯野弘司氏を任命する。課員は、本会事務員である内部SEと総務課員2名のほか、SEである。 →承認
- 2) 60周年事業実行委員会の設置について（大庭副会長）実行委員会を正式に設置し、委員会規程に基づき委員の委嘱、事務局の設置を行う。 →承認
- 3) 運転と地域移動推進委員会の継続について（辰巳常務理事）特設委員会の運転と地域移動推進委員会は2025

年度末で設置期限終了となるが、社会的要請と組織課題に基づき、活動を3年間延長する。 →承認

3. 事務局・委員会の人事

- 1) 事務局長の採用について（山本会長）事務局長職について本会ホームページで人材を募集したところ、1名の応募があった。三役面接を行い、適任と判断した長倉寿子氏を採用し、2026年4月から雇用したい。 →承認
- 2) 事務局職員の人事評価制度について（大庭副会長、辻・本郷社労士法人）本制度を2026年4月1日から適用したい。 →承認
- 3) 委員の追加委嘱申請について（山本会長）①表彰審査会、②選挙管理委員会、③「協会員＝士会員」実現のための検討委員会、④白書編集委員会、⑤教育関連審査会の委員を追加委嘱する。 →承認
- 4) 会員の倫理問題事案について（山本会長）酒気帯び運転および自損事故により行政処分と刑罰処分を受けた会員を退会処分（再入会までの期間は最低3年間）とする。 →承認
- 5) かがやきプロジェクトの助成事業について（谷川副会長）2026～2027年度事業として実施する。提案に対し、論点不十分につき2月理事会において再審議すべきとの動議が提出されたが、動議は否決された。 →助成事業企画書【案】に項目追加の修正をすることとし、承認
- 6) 第60回日本作業療法学会の予算案について（早坂常務理事）第60回学会を2026年11月20日～22日に新潟で開催する。会期中から翌年の「成人の日」までのオンドマンド配信を企画しており、参加総数を4,000名として見積もりを立てた。 →学生の単価を修正するほか、IT管理費の削減に努力することとし、承認
- 7) 2040年を見据えた作業療法提供体制のあり方について（村井常務理事、三澤理事）2025年度第4回理事会で審議した同体制のあり方について、各ワーキンググループで作成した報告（案）に若干の見直しを行った。 →承認
- 8) 協会著作物『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント』第3版発行の発意について（村井常務理事）第3版は、第2版の単なる改変ではない内容で発行する。 →承認
- 9) 厚生労働省施策に協力するためのプロジェクトチームの発足とその活動方針について（小林常務理事）厚労省の施策推進のため、会長付けのプロジェクトチームを編成する。都道府県士会向けに事業の概要説明会を開催し、次年度事業として取り組む準備をする。 →承認
- 10) 参議院議員選挙の候補者に協会の組織代表を擁立したい旨を6団体に申し入れることについて（山本会長）竹中佐江子氏を第28回参議院議員選挙（2028年）の候補者に擁立したい旨を6団体に申し入れ、本会として支援する。 →承認
- 11) その他
 - (早坂常務理事) 事務局移転に関して審議概要書を提出し明確にしたほうがよいとの意見が出された。



2025 年度 都道府県作業療法士会主催研修会一覧

- ・開催が決定しているもの、調整中のもの、中止等、開催状況に変更のあったものについてを下記に記載いたします。なお、掲載時より変更があることもご承知おきください。
- ・必ず、最新情報・お申込みにあたっての注意事項について協会ホームページの研修会ページ(<https://www.jaot.or.jp/kenshuukai/>)にてご確認ください。
- ・研修会の申し込みは、当該年度会費の納入後に行っていただきますようお願い致します。
- ・＊は新規掲載、もしくは情報が更新されたものです。



▲研修会ページ

2025 年度 臨床実習指導者講習会一覧

臨床実習指導者講習会			
主催県士会	日程	定員	詳細・問い合わせ先
* 東京都	2026年3月7日(土)～3月8日(日)	80名	詳細は、各都道府県作業療法士会ホームページをご参照ください。

■ 詳細は、日本作業療法士協会のホームページをご覧ください。

■ 協会主催研修会の問い合わせ先 電話：03-5826-7871 FAX：03-5826-7872 E-mail：ot-kenshu@jaot.or.jp

第9回日本リンパ浮腫学会総会のご案内

常務理事 高島 千敬

このたび、第9回日本リンパ浮腫学会総会を、2026年3月28日（土）・29日（日）の2日間、九州大学医学部百年講堂（福岡市）にて開催いたします。本総会では、作業療法士として初の大会長を拝命いたしました。

リンパ浮腫に関しては、2010年に診療報酬上「リンパ浮腫指導管理料」が新設されたものの、当初は算定職種に作業療法士の職名が明記されておらず、関係団体との調整や継続的な厚生労働省への要望活動を行いました。

その後、2016年の「リンパ浮腫複合的治療料」の新設と併せて、指導管理料の算定職種に作業療法士の職名が明記され、早いもので10年が経過しようとしています。

本総会では、「患者の未来をつなぐリンパ浮腫治療の役割」をテーマに、リンパ浮腫診療・ケアにかかわる多職種が共通理解を深め、実践につなげることを目的としています。また、大会長企画として、作業療法士の重要な役割の一つである就労支援をテーマとした講演も予定しています。

教育講演やシンポジウムに加え、明日からの臨床に直結するハンズオンセミナーを実施するとともに、若手研究者・臨床家の挑戦を後押しする「大会長賞」を新設しました。さらに、初日には全体懇親会に加え、初のランチョンセミナーも開催し、分野や職種を超えた交流の場を設けます。

本学会では患者参画の視点を重視し、これまでの取り組みを継承・発展させた企画も予定しています。リンパ浮腫にかかわるすべての方にとって、学びとつながりのある2日間となるよう準備を進めております。

多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。



●第9回日本リンパ浮腫学会総会
ホームページはこちら

第31回3学会合同呼吸療法認定講習会および認定試験のお知らせ

3学会（一般社団法人 日本胸部外科学会、一般社団法人 日本呼吸器学会、公益社団法人 日本麻酔科学会）合同呼吸療法認定委員会は、学会認定制度による「3学会合同呼吸療法認定士」の認定を行うため、標記認定講習会および認定試験を下記の通り実施します。

◆認定講習会について◆

受講資格：1)と2)を満たすこと

- 1) いずれかの免許および実務経験年数を有する者（実務経験は免許登録日以降、申請日まで）。
 - a) 臨床工学技士……………経験 2 年以上
 - b) 看護師……………経験 2 年以上
 - c) 准看護師……………経験 3 年以上
 - d) 理学療法士……………経験 2 年以上
 - e) 作業療法士……………経験 2 年以上
- 2) 受講申し込み時から過去 5 年以内に、認定委員会が認める学会や講習会などに出席し、12.5 点以上の点数を取得している者（受講証／修了証の写しが必要です）。

*認定委員会が認める学会および講習会は下記のホームページ上で確認してください。

<https://www.jaame.or.jp/iryo/kokyu/point.html>

（各学会や講習会主催者へは開催時期、申し込み方法以外の問い合わせはしないでください。）

◆認定試験について◆

受験資格：

- 1) 第31回認定講習会を受講した者
- 2) 第31回認定講習会受講免除者

認定講習会の受講年度	認定試験
第30回（2025年）	第31回（2026年）認定試験を受講免除者として申請できます。
第29回（2024年）	

【免除申請時に必要な書類等】

- ・顔写真付き本人確認書類、受講票（会場受講者）、受験票のいずれか
- ・戸籍抄本（過去申請時と氏名が異なる場合のみ）

◆申込等詳細について◆

実施要領および申請書類の入手はダウンロードのみです。郵送での請求対応、事務局での直接配布は行っておりません。申請にはメールアドレスの登録が必要です。

第31回認定講習会および認定試験の詳細は、

2026年2月2日（月）にホームページで公表予定です。

《お問い合わせ》

3学会合同呼吸療法認定士認定委員会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-34 本郷MKビル2F 公益財団法人医療機器センター内

Email kokyu-m@jaame.or.jp

<https://www.jaame.or.jp/iryo/kokyu/point.html>





協会刊行物・配布資料一覧

資料名	略称	税込価格
パンフレット 一般向け協会パンフレット（作業療法ってなんですか？）	パンフ OT	無料（送料負担） ※ただし、1年につき50部を超える場合は、有料。
一般向け協会パンフレット（INFORMATION BOOK 1）英語版	パンフ英文	
入会案内	パンフ入会	
特別支援教育パンフレット（作業療法士が教育の現場でできること）	パンフ特別支援	
子どもへの作業療法（○○○とつなぐ）	パンフ子ども	
日々の暮らしを続けるために。認知症リハビリテーションがあります。	認知症チラシ	
暮らしを支える医療をお手伝いします。	パンフかかりつけ医	
一かかりつけ医の先生にお伝えしたい、作業療法ができること—	パンフオーティくん	
小・中学生向けパンフレット（作業療法ってなんですか？オーティくん version）	パンフ認知症	
認知症パンフレット「作業療法でデキタウン」		
作業療法関連用語解説集 改訂第2版 2011	用語解説集	1,019円
作業療法白書 2015	白書 2015	2,037円
作業療法白書 2021	白書 2021	2,200円（送料負担）
日本作業療法士協会五十年史	五十年史	3,056円
作業療法啓発ポスター 2022年度 共生社会編	ポスター共生社会	送料のみ

作業療法マニュアルシリーズ

資料名	略称	税込価格	資料名	略称	税込価格
35：ヘルスプロモーション	マ35ヘルスプロモ	各 1,019円	64：栄養マネジメントと作業療法*	マ64栄養	各 1,019円
37：生活を支える作業療法のマネジメント 精神障害分野	マ37マネジメント		65：特別支援教育と作業療法	マ65特別支援	
41：精神障害の急性期作業療法と退院促進プログラム	マ41退院促進		67：心大血管疾患の作業療法 第2版*	マ67心大血管	
43：脳卒中急性期の作業療法	マ43脳急性期		68：作業療法研究法 第3版	マ68研究法	
47：がんの作業療法① 改訂第2版	マ47がん①		69：ハンドセラピー 第2版	マ69ハンド第2版	
48：がんの作業療法② 改訂第2版	マ48がん②		70：認知症初期集中支援－作業療法士の役割と視点－第2版	マ70認知症初期	
50：入所型作業療法	マ50入所型		71：生活支援用具と環境整備Ⅰ－基本動作とセルフケア－	マ71生活支援用具Ⅰ	
51：精神科訪問型作業療法	マ51精神訪問		72：生活支援用具と環境整備Ⅱ－IADL・住宅改修・自助具・社会参加－	マ72生活支援用具Ⅱ	
52：アルコール依存症者のための作業療法	マ52アルコール依存		73：精神科作業療法部門運用実践マニュアル	マ73精神運用実践	各 1,980円
53：認知機能障害に対する自動車運転支援	マ53自動車運転		74：身体障害の作業療法実践マニュアル－早期離床を中心－	マ74早期離床	
55：摂食嚥下障害と作業療法－吸引の基本知識も含めて－	マ55摂食・嚥下	各 1,019円	75：生活行為向上マネジメント改訂第4版	マ75生活行為	
58：高次脳機能障害のある人の生活－就労支援－	マ58高次生活・就労		76：呼吸器疾患の作業療法 第2版	マ76呼吸器疾患	
60：知的障害や発達障害のある人への就労支援	マ60知的・発達・就労		77：通所リハビリテーションの作業療法	マ77通所リハ	
61：大腿骨頸部／転子部骨折の作業療法 第2版	マ61大腿骨第2版		78：子どもの通所支援における作業療法	マ78子ども通所	各 1,980円
62：認知症の人と家族に対する作業療法	マ62認知家族		79：精神科作業療法計画の立て方－ICFに基づくアセスメントと対象者が望む生活の実現－	マ79精神科計画	
63：作業療法士ができる地域支援事業への関わり方*	マ63地域支援		80：うつ病を抱える人への作業療法	マ80うつ病	

* 63・64・67は在庫がなくなり次第、販売終了いたします。

【申し込み方法】

お問い合わせは協会事務局までお願いします。

申し込みは、協会ホームページもしくは機関誌に掲載されている **FAX注文用紙**、または **ハガキ** でお申し込みください。

注文の際の資料名は、略称でかまいません（上の表をご参照ください）。有料配布物は当協会員からのお申し込みの場合、送料は協会が負担します。ただし、購入者が非会員や団体等の場合および申し込み者が会員であっても請求書宛名が団体の場合は別途送料（実費）をご負担いただきます（ただし、都道府県士会からの申込み分は送料無料）。無料配布パンフレットは、送料のみ負担となります。

購入者が団体等の場合のみ、納品書、適格請求書（インボイス対応）を発行します。

有料配布物の場合は請求書・郵便振込通知票を同封します。なるべく早く お近くの郵便局から振り込んでください。

不良品以外の返品は受け付けておりません。



協会刊行物・配布資料注文書

FAX.03-5826-7872

※資料名は略称で結構です。

無料刊行物・配布資料

資料名	部数	資料名	部数

※協会広報活動の参考にしますので、使用目的をお書き下さい

有料刊行物・配布資料

資料名	部数	資料名	部数

会員番号

氏　名

※当協会員の方は、登録されている住所に送付いたします。登録住所に変更がある場合は変更手続きを行ってください。

非会員の方のみ会員番号欄に住所（〒を含む）、電話番号を記載してください。

※都道府県士会の広報活動等で使用される場合は、士会事務局に送付している専用申し込み用紙にて送付してください。

その場合、枚数制限はございません。

求人広告のお申込と出稿の方法

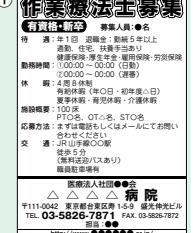
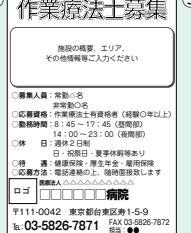
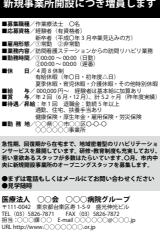
◆求人広告掲載のお申込は協会事務局まで

施設名、ご担当者名、住所、電話番号、Eメールアドレス、希望の作成パターン（A・Bよりお選びください）を記載のうえ、Eメールにて協会事務局（kikanshi@jaot.or.jp）までお申込みください。希望掲載号発行月の前々月末が申込締切となります。

A. 基本デザイン作成パターン

(費用=版下作製費0円+広告掲載料13,000円)

①～③の基本フォームからお好きなデザインを選択していただき、掲載情報のみご提供いただけます。文字内容の変更は受け付けますが、デザインの変更はできません。

① 作業療法士募集 	② 作業療法士募集 	③ 新規事業所開設につき増員します 
--	---	---

B. オリジナル版下支給パターン

(費用=版下作製費0円+広告掲載料13,000円)

指定する要領（幅82mm×高さ122mm）で完全版下をご提供いただいた場合も、版下作製費は発生いたしません。

※複数月掲載の際、デザイン変更を希望され、作業が発生した場合は別途版下代をいただく場合がありますのでご注意ください。また、オリジナルデザインでの版下作製も受け付けておりますので、ご相談ください。

作業療法マニュアルシリーズ お詫びと訂正

本会発行の作業療法マニュアルシリーズNo.68『作業療法研究法マニュアル 改訂第3版』の本文中、以下の箇所に誤りがございました。お詫びして、訂正させていただきます。なお、1月6日発送分からは、下記の正誤表を挟み込んでおります。

該当頁	該当箇所	誤	正
15 頁	図1の下部の右図	マン - ホイットニー検定	マン - ホイットニーのU検定
	同上	ウィルコクソン符号付順位和検定	ウィルコクソンの符号順位検定
17 頁	表3	ウィルコクソン（Wilcoxon）順位和検定	ウィルコクソン（Wilcoxon）の符号順位検定
	同上	マン - ホイットニー（Mann-Whitney）検定	マン - ホイットニー（Mann-Whitney）のU検定
	右段の下から6～7行目	ウィルコクソン（Wilcoxon）検定、マン - ホイットニー（Mann-Whitney）検定、フリードマン（Friedman）検定などがある。	ウィルコクソン（Wilcoxon）の符号順位検定、マン - ホイットニー（Mann-Whitney）のU検定、フリードマン（Friedman）検定などがある。
20 頁	右段の上から6行目	マン - ホイットニー検定などがある。	マン - ホイットニーのU検定などがある。
	右段の上から11行目	ウィルコクソンの符号付順位和検定などがある。	ウィルコクソンの符号順位検定などがある。



日本作業療法士連盟だより



連盟ホームページ

若き「多数派」が変える、 作業療法の明日

日本作業療法士連盟副会長 関本 充史



私たち作業療法士の職能団体は、極めて若い世代が支えているという特徴をもっています。会員の多くが20代・30代であり、この「若さ」は、これからリハビリテーション医療を支える最大のエネルギーです。しかし、同時に問い合わせたいことがあります。私たちはその「若さと数」という大きな可能性を、未来のために十分に活かせているでしょうか。

日々の臨床現場で、私たちは対象者のために全力を尽くしています。しかし、どれほど素晴らしい実践（エビデンス）を積み重ねても、それを評価し、報酬として還元し、職域を保障する「制度」を決めるのは、最終的には政治と立法の場です。私たちが声を上げるのは、決して自分たちの待遇のためだけではありません。現場の実情に合わない制度のままで、結果として、必要なリハビリテーションを国民に十分に届けることができなくなってしまうからです。私たちの活動は、私たち自身のためであると同時に、何よりも「国民の健康と生活を守るために」にあるのです。

「私たちのことは、私たちの手で決める」。これ

が民主主義の原則であり、連盟活動の根幹です。誰かが良い制度をつくってくれるのを待つ「お客様」でいる時代はもう終わりました。これからの数十年、この国で作業療法士として、国民の暮らしを支え続けていくのは、ベテラン世代以上に、今20代・30代の皆様自身です。

政治活動やロビー活動と聞くと、遠い世界の出来事や難解なものに感じるかもしれません。しかし、本質はシンプルです。それは「現場のリアリティを立法府へ届け、法律や制度を、現場の実情に即したものへ進化させること」にはなりません。圧倒的な人口比率をもつ若い世代が関心をもち、一つに結局すれば、それは国の政策決定をも動かすほどの影響力となり、確かな変化を生み出す原動力となります。

若い皆様の柔軟な発想と行動力こそが、現状を打破する鍵です。自分たちの職能、そして何より国民の利益を守るために。まずは「知る」ことから始め、ともに声を上げていきましょう。未来は、与えられるものではなく、私たちが立法へと働きかけ、自分たちの手で創り上げるものです。

医療福祉eチャンネルで、見て学ぶ作業療法



一般社団法人 日本作業療法士協会
会長 山本 伸

1講座1.5時間の単位認定番組

※日本作業療法士協会会員ポータルサイトに反映

- 現職者共通研修 [8番組]
- 生活行為向上マネジメント [基礎編]



医療福祉eチャンネル(<https://www.ch774.com/>)での単位認定には「履修登録」「受講管理料」が必要となります。詳しくは「日本作業療法士協会会員の皆さんへ」をご覧ください。



自宅でできるリハビリテーション 無料で視聴できます!

第21回 「動いて考えるコグニサイズで健康な脳を手に入れよう」

コグニサイズとは、運動と認知課題(しりとりや計算など)を組み合わせた認知症予防のためのトレーニング方法です。家族や友達と一緒にながら挑戦してみてください。

編集後記

「今年は丙午だから変化のある1年になりそうだ」なんてことを、あちこちで耳にされているかもしれません。「丙」とは古代中国で考案された十干という概念の一つで、暦に使う場合は西暦の下1桁の数字で分類するそう。つまり、「丙」は6というわけです。「午」はもちろん十二支の午です。そして、丙も午もどちらも「陽」「火」という気の性質を示すとされています。火のように勢い盛んで、陽つまり外に向かって飛び出していく。丙午は、そんな様を象徴しています。

前回の丙午——西暦の下1桁が6かつ午年の組み合わせは、今からちょうど60年前の1966年。なんと本会の創設年です！本会はまるで火のように勢いよく生まれたかのようですね。再び丙午を迎える、創立60周年の今年（および2026年度）は本会の新たなスタートとなる予感がしてなりません。

（機関誌編集制作スタッフ）

本誌に関するご意見、お問い合わせがございましたら下記までご連絡ください。

E-mail kikanshi@jaot.or.jp

■ 2024年度の確定組織率

50.8%（会員数60,146名／有資格者数118,465名^{*}）

* 2025年度は会員数がまだ確定していないため組織率の算定ができません。当協会の最新の組織率としては、理事会の承認を得て確定した2024年度の会員数に基づくこの数値をご利用ください。

■ 2026年1月1日現在の作業療法士

有資格者数 118,465名^{*}

会員数 62,294名

社員数 257名

認定作業療法士数 1,824名

専門作業療法士数（延べ人数） 154名

■ 2025年度の養成校数等

養成校数 199校（203課程）

入学定員 7,455名

* 有資格者数の数値は、過去の国家試験合格者数を単純に累計した数に、本会が把握し得た限りでの外国で取得した免許から日本国免許へ切り換えた者を加え、2024年度までの死亡退会者数（302名）を除いた数として示していますが、免許証の未登録、取り消し、本会が把握し得ない死亡その他の理由による消除の結果生じた減数分は算入されていません。

日本作業療法士協会誌（毎月1回発行）

第167号 2026年2月15日発行

□発行人：山本伸一

□制作広報室

室長：島崎寛将

担当：宮井恵次、遠藤千冬、岩花京太朗、大胡陽子

□制作・印刷：株式会社サンワ

□発行 一般社団法人日本作業療法士協会

〒111-0042 東京都台東区寿1-5-9 盛光伸光ビル

TEL.03-5826-7871 FAX.03-5826-7872

E-mail kikanshi@jaot.or.jp 協会ホームページ <https://www.jaot.or.jp/>



●協会ホームページに
機関誌の電子版を掲載しています

□求人広告：1/4頁1万3千円（賛助会員は割引あり）

会員一人ひとりが、 もっと輝ける協会へ。

一人ひとり 性別も年齢も働く場所も違うけれど

会員それぞれが輝いて、未来へ向かって歩んで行ける

——そんな活動を展開することが

日本作業療法士協会の果たすべき役割の一つです。

日本全国の会員の誰もが主役になって、

共に学び、成長し、作業療法士として輝けるように。

日本作業療法士協会は、さまざまな声に耳を傾けながら、

会員とともに発展し、未来を創造していきたい。



日本作業療法士協会は、 変わります。

バランスの取れた組織づくりの第一歩として、

ジェンダーに着目した「クオータ制度」がスタート。

これからも協会は変わっていきます。

さまざまな性別・年代・領域の皆さん、

一緒に、作業療法士の未来を創っていきませんか？



クオータ制度の
詳しい情報はこちらから



2026年2月15日発行 第167号